

まんまぶだより

No 53 号
2000-5-15



「大阪市立環境学習センター生き生き地球館」

館の入り口を入った所に下記のような掲示があります。環境の悪化は確実に人類の死滅と地球の破滅を早めています。今や無視・無関心・無行動では済まされない時代になりました。

『水や空気、緑、多種多様な生き物など、私たちを取り巻くこれらの環境は、それぞれが密接な関係を保ち、微妙なバランスの上に成り立っており、私たち人間にとってかけがいのないものです。』

しかし、現在、人間のさまざまな活動の結果、地球環境そのものが危機を迎えています。健全で恵み豊かな環境を守り、未来に引き継いで行くためには、私たち一人ひとりが今までの資源を

浪費するライフスタイルを見直し、環境を守るために行動することが大切です。

大阪市では「見て・聞いて・ふれて・学ぶ環境学習体験館」として、また、「地球にやさしいライフスタイルの実験の場」として、この「生き生き地球館」を開設しました。

この施設を環境学習の拠点として、市民の皆さんといっしょに環境問題を考え、行動してまいりたいと考えています。』

大阪市立環境学習センター

巻頭言

技術士の新倫理

技術士は新産業の開発競争、生活のレベル向上や快適化に貢献したりする業務の真っ只中にあり、研究開発に没頭出来れば、その心には充実感が溢れるであろう。しかし、やがてリーダー格になり、責任が大きくなった場合、技術に携わる者の備えるべき倫理要件が、ぴったりとつきまとう立場になる。時の流れは激しくて、技術者はグローバルの視野に立ち生態学を念頭に置くところから発想しないようでは、現代も未来も語れなくなった。

日常的に、社会的上位にある経営者とか、主権者に意見や判断を求められれば、公共の安全、環境の保全の公益を害しないというのが、もはや当然の倫理要件として外せない所まで社会の常識が変貌した。ましてわれわれ日本という先進国の技術士であれば、グローバルの見識の許に行動するとか生態学をよく理解しているというレベル以上の存在でありたいもの。言い換えれば、「技術士は地球持続に背かない技術を振興せよ」ということになる。

参考資料：技術士制度の改善方法について（科学技術庁技術士審議会平成12年2月23日発表）

支部長 加藤 薫

目 次

巻頭言	加藤 薫	1
和歌山県技術士懇話会発足	森山 登	2
技術士試験監督員募集		2
支部長会議報告・理事会報告		3
日本技術士会近畿支部定時総会のお知らせ		3
新旧交歓会特別後援会	日本技術士会吉武副会長	4
原子力発電所の放射性廃棄物処理について	末広 和康	5～6
ジス イズ ニューヨーク	妹尾 一成	7～8
水力発電所と峠への道	三宮 靖典	9～10
技術士補から技術士へ ～合格体験記～	石谷 博子	11～12
部会・研究会報告		13～19
編集後記		19